

# 総務建設常任委員会協議会 説明資料

令和8年2月5日

三沢川樋門整備事業について

---

## 資 料

---

三沢川樋門整備事業について	1～2
工事の進捗状況について	3～4

河川・下水道課

# 三沢川樋門整備事業について

## 三沢川の概要

三沢川は高麗山公園の浅間山付近に源を発し、金目川に流れる小川です。その流域面積は203.59ha、流路延長2,824mで、計画排水量は21.422m<sup>3</sup>/sとなっています。

流域は源流部を除き、全体に都市化が進み、流出量の増加がみられ、このような状況から河口から三沢橋交差点までの1,516mの区間について河床と兩岸の三面をコンクリートで覆った三面張り水路で整備されています。また、町の公共下水道基本計画に定めた計画降雨1時間当り55mmを処理する能力を有していることから、令和5年12月には、1,464mの区間について下水道事業による主要な雨水幹線として位置付け、管理を行っています。

○三沢川の集水区域図



## 樋門の必要性

金目川は、河川整備計画に基づき1時間当り50mmの降雨に対応できるよう、堤防の整備を進めています。

三沢川についても、金目川の河川整備計画に合わせ、嵩上げ工事を行いました。

今回、河川整備計画を超える降雨に対して検証を行ったところ、金目川が三沢川へ逆流し、溢水することが想定されたことから、その対策として樋門（フラップゲート）を設置することとしました。

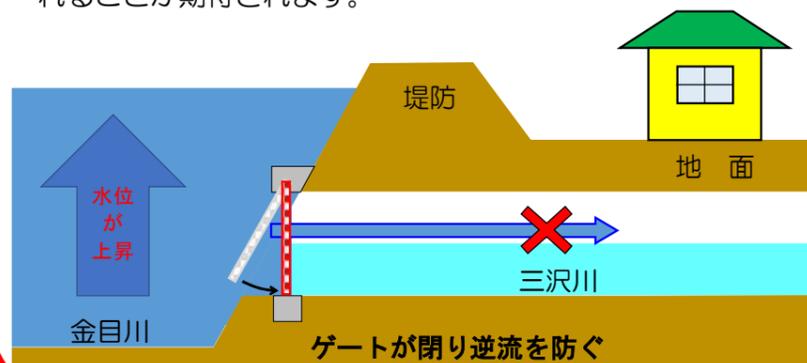
○三沢川の嵩上げ状況



## 期待される効果

### 防災機能の強化

- ・フラップゲートを設置することにより、金目川が水位上昇により三沢川に逆流することがなくなります。
- ・逆流による三沢川の溢水が防止され、浸水被害が抑制されることが期待されます。



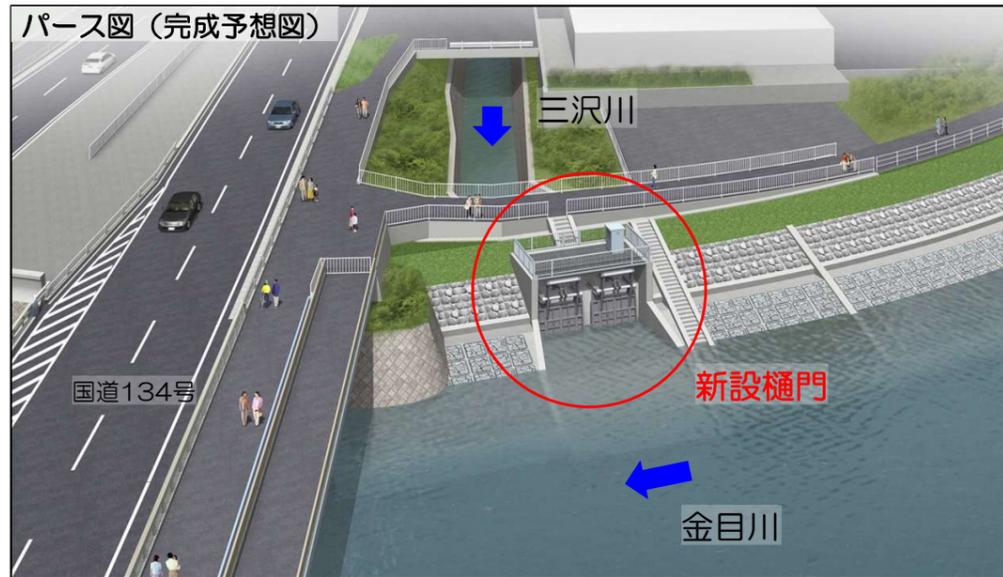
### 避難所へのアクセス向上

- ・三沢川の溢水が抑制され、道路冠水の軽減などにより、住民の避難所等へのアクセスが向上します。



## 整備の方針

- 金目川との合流地点に樋門を設置し、金目川が水位上昇により三沢川へ逆流するのを遮断します。
- 樋門の構造は、幅2.8m、高さ1.8mの2連のボックスカルバート、及び無動力で自動開閉するフラップゲートを採用します。
- フラップゲートの作動状況、例えば正常動作を阻害する土砂の堆積等は、カメラで遠隔監視します。
- 土砂の堆積などにより自動開閉が出来ないときのために、手動操作による油圧式強制開閉機能を設けます。
- 金目川の河川整備計画の降雨では、フラップゲートが自動開閉し三沢川は溢水しないので、ポンプ設備は設けません。



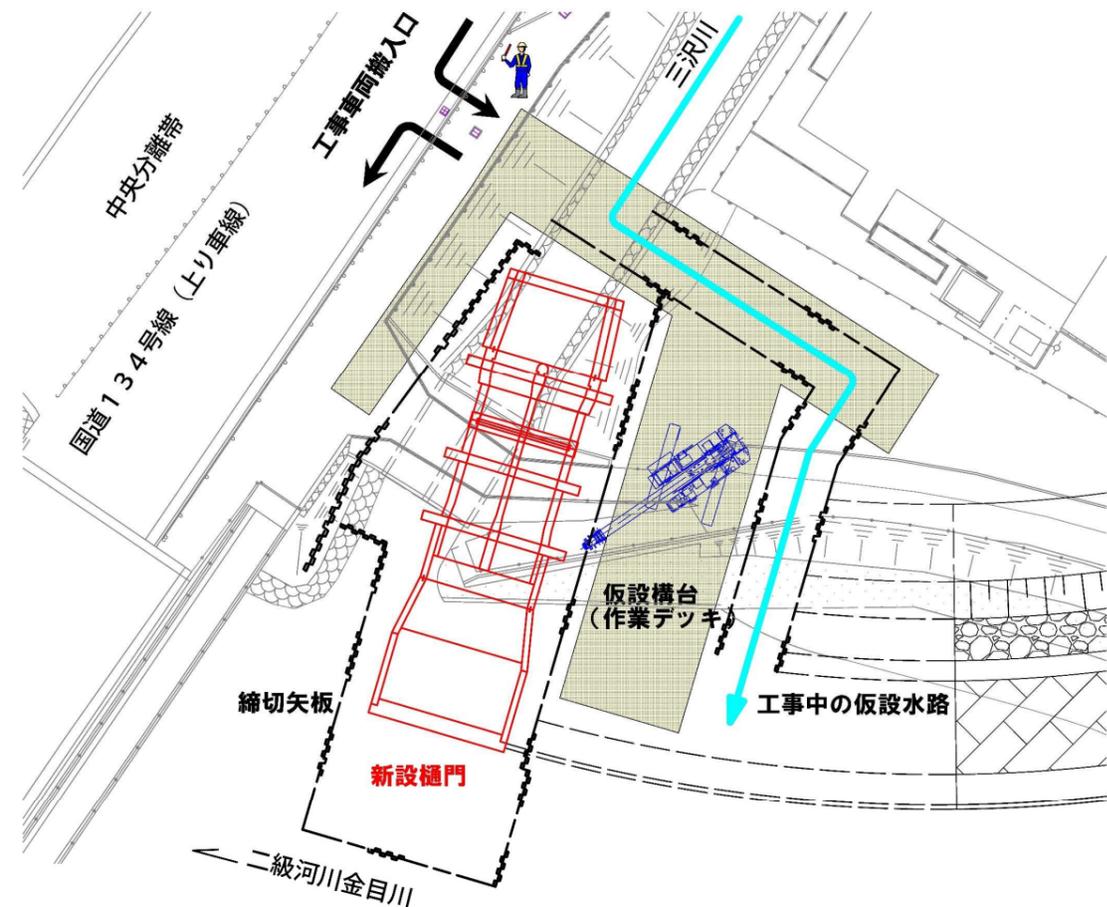
## 工事の概要

- 工 事 件 名 三沢川樋門整備工事
- 施 工 場 所 平塚市 唐ヶ原 地内
- 請 負 金 額 411,400,000円  
緊急自然災害防止対策事業債〔充当率100% 交付税措置率70%〕
- 契 約 の 期 間 令和6年9月30日 ~ 令和8年3月25日
- 請 負 業 者 株式会社稲元興業 大磯営業所
- 工 事 内 容 工事延長 L=30m  
樋門工 堤防工 管理用通路 仮設工 機械設備工 電気設備工

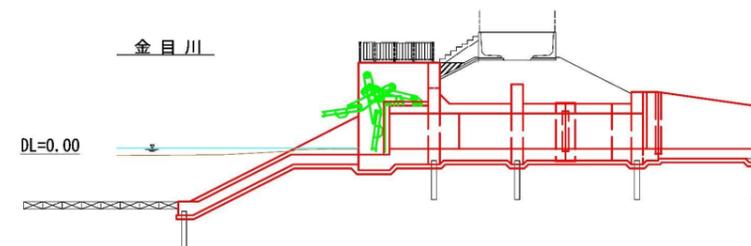
○概略工程表

	令和6年度												令和7年度												令和8年度
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
三沢川樋門整備工事	（工事抑制） 出水期				・函体（ボックスカルバート）の築造 ・擦付堤防の築造 【土木設備】								（工事抑制） 出水期				・フラップゲートの取付 ・遠隔監視装置設置 【機械・電気設備】								

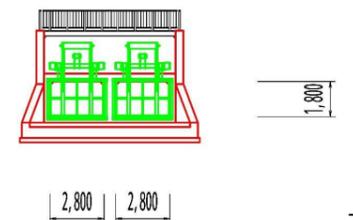
## 作業平面図



## 縦断面図

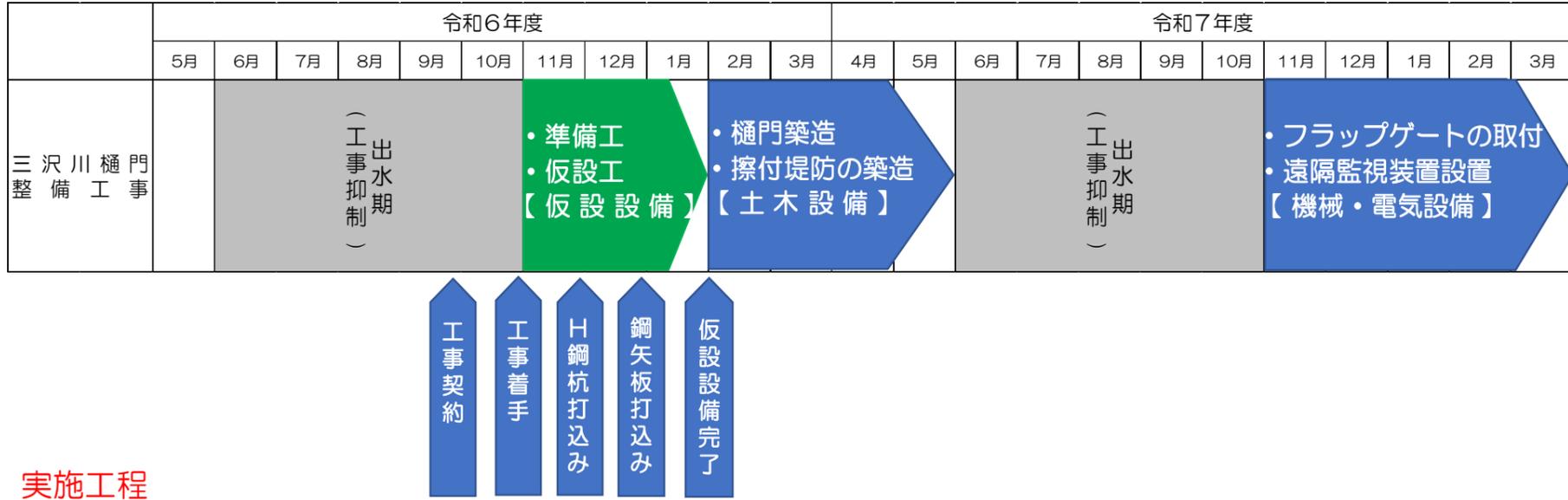


## 正面図



# 工事の進捗状況について

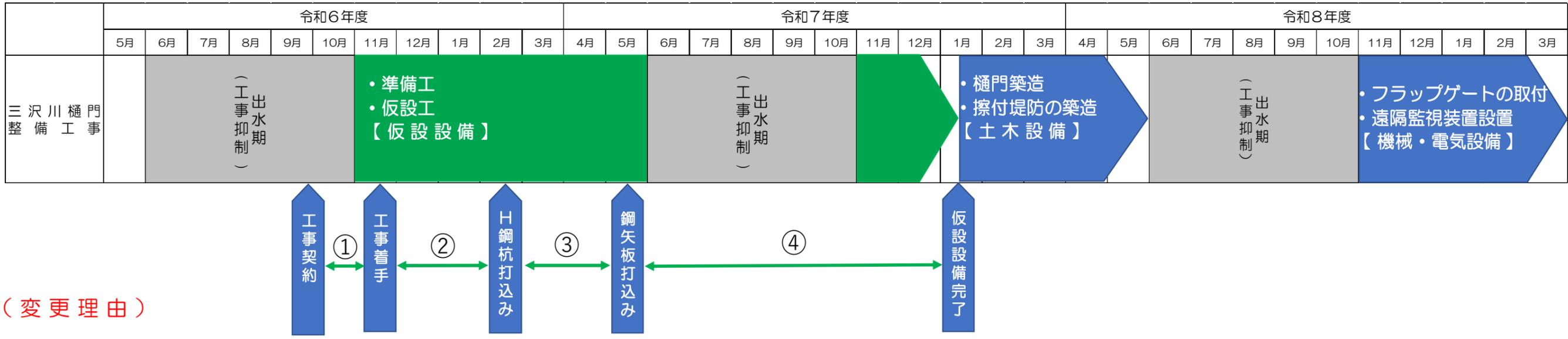
## 当初工程



※ 工期・工法変更に伴う請負金額の変更はありません。

作業ヤード内の工事ため、車道・歩道とも交通規制等はありません。

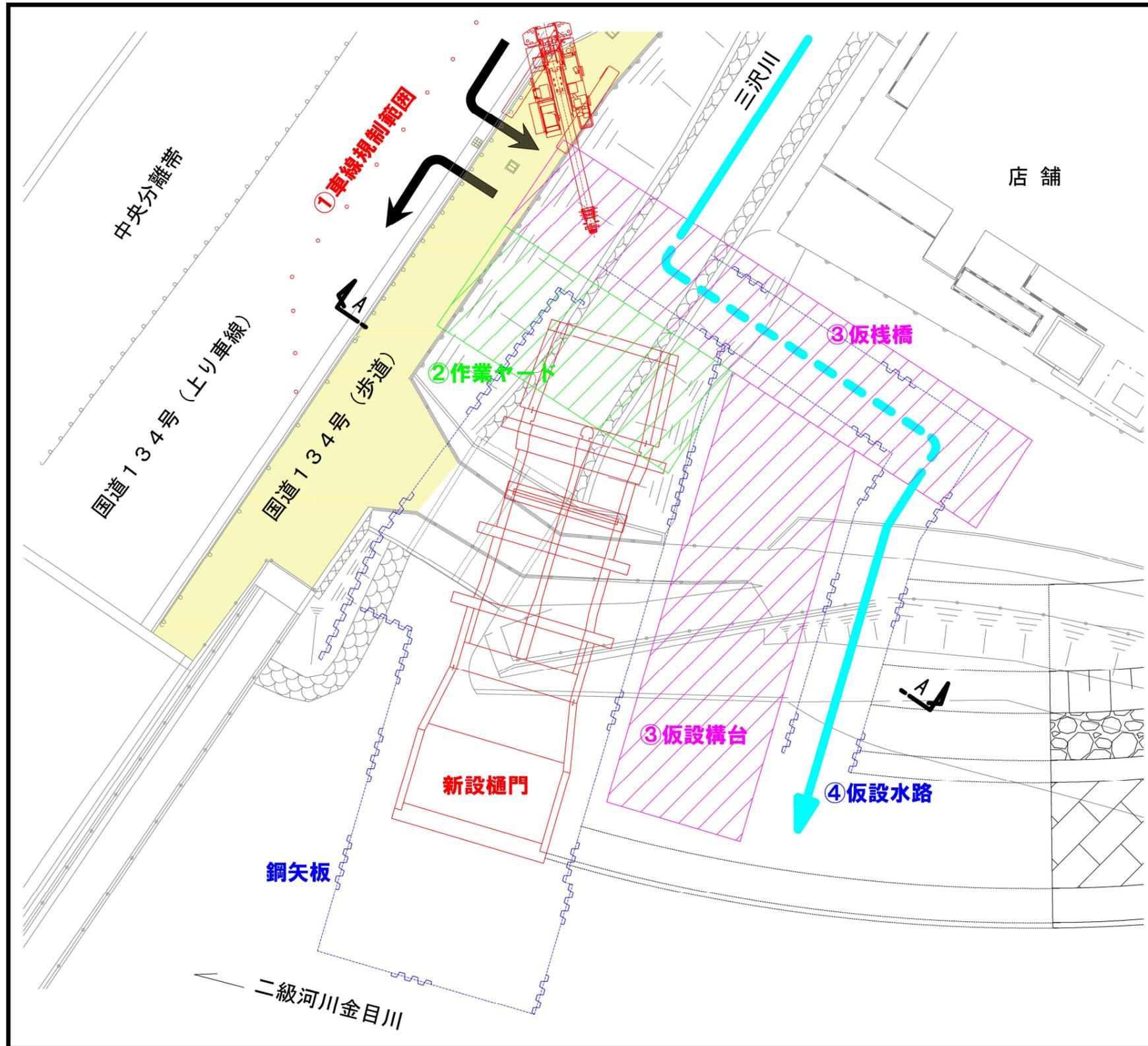
## 実施工程



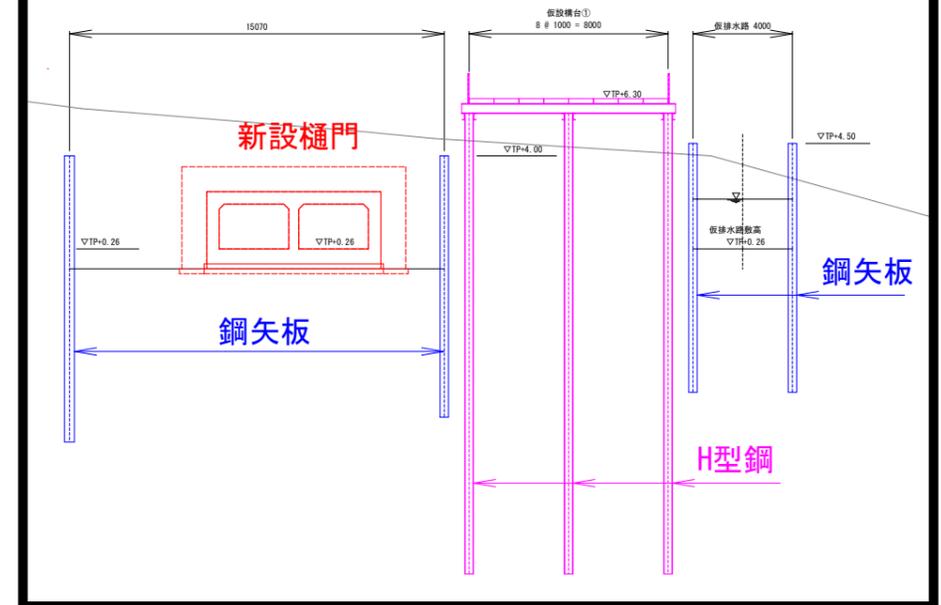
## (変更理由)

- ① 工事着手前の警察との協議において、当初、現場への搬入ルートとして、昼間施工により、国道134号上り車線を一車線規制して行うものとしていたが、車道及び歩道の安全面等から、夜間作業となったことや、歩道を使用しての作業ができなくなるなど協議に時間を要した。
- ② 警察協議の結果、当初想定していた歩道を使用しての作業ヤードの設置ができなくなり、新たに、作業ヤードを現場内に設置する必要が生じたため、その検討期間と設置に時間を要した。
- ③ 仮設栈橋や仮設構台を設置するための、H型鋼材を地中に打ち込む機械について、当初、近隣店舗への影響等から、先にオーガーと呼ばれるドリル状の掘削機により穴を掘り、その穴にH型鋼を打ち込む「アースオーガー先行掘モンケン打撃工法」を採用し、施工したところ、オーガーを引き抜いた際、想定した砂礫層がもろく、削孔した穴が崩壊してしまいH型鋼が設置できなくなってしまったため、他の工法検討に時間を要した。
- ④ 三沢川の流れを変える仮排水路を設置するための鋼矢板打ち込みについては、当初、圧入機と呼ばれる機械で油圧により地中に打ち込む「サイレントパイラー工法」を採用し施工したところ、想定より浅い位置に支持層（堅い岩盤層）がでてきたため、打ち込む機械を変更する必要が生じ、その検討期間とともに、岩盤層への打ち込み作業による作業効率の低下により時間を要した。  
 また、H型鋼の打ち込み作業においても、岩盤層が浅い位置にでてきたことにより、H型鋼の上部を切断する必要が生じた箇所があり、その作業に時間を要した。

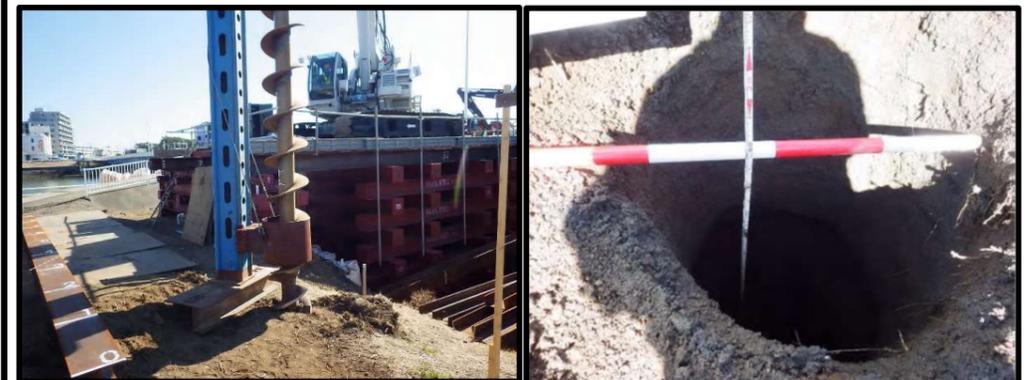
現況平面図



A-A 断面図



③オーガー掘削状況



掘削12m 実施

掘削後の深さ 2.9m

④H形鋼切断状況

